

学会員（教員）研究動向〔2014.4～2015.3〕

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
秋葉 武	論文(単著)	「協同組織金融機関と社会」(中川雄一郎・杉本貴志編『協同組合 未来への選択』日本経済評論社) 79-100頁	2014.5
	論文(単著)	「韓国の社会的企業」(山本隆編, 『社会的企業論: もうひとつの経済』, 法律文化社) 138-149頁	2014.10
	論文(共著)	「長寿島」の研究—奄美・与論島を事例として—(富澤公子・秋葉武・姜泰羊, 『立命館産業社会論集』50巻3号) 173-185頁	2014.12
	論文(単著)	「協同組合におけるクラウドファンディングの可能性」(『協同組合研究誌にじ』649号, 日本協同組合学会) 87-94頁	2015.3
	研究発表等 (単独)	「日本のシニアの社会参加/社会貢献の多様化」(韓日シンポジウム: シニアの社会参加, 韓国希望製作所主催, 於: ポスト・タワー会議室ソウル市)	2014.6
	研究発表等 (単独)	「日本のソーシャル・ビジネス」(2014 グローバル社会的企業シンポジウム, プサン市主催, 於: BEXCO)	2014.7
	研究発表等 (単独)	“Sharing Economy in Japan” (Global Social Economy Forum 2014: at Seoul City Hall)	2014.11
	研究発表等 (単独)	「韓国の社会的企業と社会的経済—マイクロ・メゾからマクロへ—」(日本NPO学会第17回年次大会, 於: 武蔵大学)	2015.3
荒木 穂積	論文(共著)	「イタリア共和国エミリア・ロマーニャ州における障害児教育・福祉に関する調査研究」(平沼博将・石川政孝・バユス・ユイス・小西豊ほか, 『立命館産業社会論集』50巻2号) 31-54頁	2014.9
	論文(共著)	「新しい発達診断法開発の試み—幼児期における発達の時期ごとの分析的検討—」(竹内謙彰・中村隆一・荒井庸子・松島明日香ほか, 『立命館産業社会論集』50巻2号) 121-131頁	2014.9
粟谷 佳司	論文(単著)	「マクラーハンから視聴覚文化へ」(『新視覚芸術研究』1巻, 新視覚芸術研究会) 40-43頁	2015.3
	その他(単著)	「個人史と文化的記憶が交わる音楽の位相」(『図書新聞』3153号, 図書新聞) 4頁	2014.4
	研究発表等 (単独)	「マクラーハンから視聴覚文化へ」(シンポジウム「デジタルメディア時代の視覚と世界変容—写真とその周辺領域において何が起きているのか」, 於: 六甲山YMCA)	2014.9
	そ の 他 (パネリスト等)	「ラウンドテーブル」(「マクラーハンの跡を追って: 『メディア論』刊行50周年」 於: カナダ大使館)	2014.4
飯田 豊	著書(分担執筆)	『ヤンキー人類学—突破者たちの「アート」と表現』(斎藤環, 都築響一, 榎木野衣, 増田聡ほか, フィルムアート社) 152-163頁	2014.10
	論文(単著)	「写真文化におけるアマチュアリズムの歴史の変容」(『新視覚芸術研究』1号) 29-39頁	2015.3
	その他(単著)	「生活記録」としての生の芸術/「花咲くジイさん—我が道を行く超経験者たち」展」(『美術手帖』11月号, 美術出版社) 186-187頁	2014.10
	その他(単著)	「空振りを恐れない挑戦的姿勢に明るい未来」(『月刊民放』10月号, 日本民間放送連盟) 13-15頁	2014.10

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
飯田 豊	研究発表等 (単独)	「写真文化におけるアマチュアリズムの歴史的変容」(シンポジウム「デジタルメディア時代の視覚と世界変容—写真とその周辺領域において何が起きているのか」, 於: 六甲山YMCA)	2014. 9
	研究発表等 (共同)	「ラジオ・アートの思想と実践」(毛原大樹, 京都メディアフォーラム, 於: 京都市/HAPS スタジオ)	2015. 1
	研究発表等 (単独)	「大学教育におけるソーシャルメディア利用の課題と展望」(メディアデバイスから開く/閉じるパートナーシップ—ソーシャルメディア・ハラスメント・大学, 於: 立命館大学)	2015. 2
石倉 康次	著書(共著)	『現代社会と福祉』(児島亜紀子・伊藤文人・坂本毅啓ほか, 「第3章 現代社会における社会福祉の理念」「第4章 社会保障・社会福祉の制度と政策」, 東山書房) 94-106, 108-129頁	2015. 3
	論文(単著)	「「税と社会保障の一体改革」の歪みとそれを正す力」(『総合社会福祉研究』43号, 総合社会福祉研究所) 2-16頁	2014. 5
	翻訳(共訳)	イアン・ファーガソン著「福祉国家は終焉したのか?—緊縮財政で揺れるイギリス—」(黒川奈緒, 『総合社会福祉研究』43号, 総合社会福祉研究所) 73-90頁	2014. 5
	研究発表等 (単独)	「福祉の準市場化の中で, 民間社会福祉事業は何を大切にすべきか」(第20回社会福祉研究交流集会, 於: 立命館朱雀キャンパス)(『総合社会福祉研究』第44号, 総合社会福祉研究所, 2014. 12) 69-71頁	2014. 8
石田 智巳	著書(共著)	『日本の民主教育2014』(森敏生・佐藤訓子・新村洋史・野井真吾ほか, 大月書店) 161-162頁	2015. 1
	論文(単著)	「陸上運動の実践を創る」(『たのしい体育・スポーツ』276号, 学校体育研究同志会) 30-32頁	2014. 7
	論文(単著)	「武道の授業を見る話」(『同上』284号, 同上) 32-33頁	2014. 9
市井 吉興	論文(単著)	「カジノ・ポリティクス試論: カジノ合法化をめぐる「政治」の把握に向けて」(『立命館産業社会論集』50巻4号) 39-52頁	2015. 3
伊藤 隆司	論文(単著)	「小学校における「伝統的な言語文化」の学習と『徒然草』」(『語り合う文学教育』13号, 語り合う文学教育の会) 9-17頁	2015. 3
伊東 寿泰	その他(分担執筆)	「南アフリカのクリスマス」(嶺重淑・波部雄一郎編『よくわかるクリスマス』, 教文館) 114-115頁	2014. 9
	研究発表等 (単独)	「物語批評と宣教: 説教におけるキャラクタースタディを中心に」(シンポジウム「新約聖書学と現代の宣教」, 於: 日本基督教団信濃町教会)	2015. 3
文 楚雄	著書(共編著)	『よくわかる中国語検定3級—リスニング篇—』(斎藤敏康監修, 陳敏編著, 郁文堂) 全449頁	2014.11
	論文(単著)	「「順口溜」について」(『立命館産業社会論集』50巻1号) 13-32頁	2014. 6
漆原 良	論文(共著)	“Anxiety affects the amplitudes of red and green color-elicited flash visual evoked potentials in humans.” (Hosono Y, Kitaoka K, Séi H, Kinouchi Y., J Med Invest. 61巻(1-2)号) pp.79-83.	2014. 2
	研究発表等 (共同)	「サッカーのドリブルに関係する能力についての検討」(日本体育学会第65回大会, 於: 東海大学)	2014. 8

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
江口 友朗	論文(単著)	「経済学における制度アプローチの1課題：制度の下でのアクターの持続的な異質性及び行為の多様性を説明するためのロジックについて」(『立命館産業社会論集』50巻1号) 97-116頁	2014.6
	研究発表等 (共同)	「社会福祉制度とその諸背景：タイと韓国での独自個票調査に基づいて」(Sinudom ARISSARA・加藤里紗・申成秀との順不同報告, アジア政経学会2014年度全国大会, 於：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス)	2014.6
	研究発表等 (共同)	Economic Value of Social Customs or Cultural Behaviors: A Case Study of Private and Autonomous “Mutual Assistance Payments” in Thailand and South Korea. (Co-Authors: Sinudom ARISSARA, Sungsu SHIN, and Risa KATO in random order.) (The International Symposium on ASEAN +3 Communities: Socio-Political Challenges on Identity and Difference)	2014.7
	研究発表等 (共同)	「タイ王国及び韓国における家計間での私的な相互扶助について：その実態に基づく文化的・社会的行為の制度論的な理論化に向けて」(Sinudom ARISSARA・加藤里紗・申成秀との順不同報告, 国際開発学会第25回全国大会, 於：千葉大学)	2014.11
	研究発表等 (共同)	“Economic development stages and Private Human Networks: From Aspects of Autonomous ‘Mutual Assistance Payments’ in Thailand and South Korea” (Co-Authors: Sinudom ARISSARA, Risa KATO, and Sungsu SHIN in random order) (International Symposium: Contemporary Transformation of Socio- Economic Structure under Neoliberal Globalization in East Asia)	2015.3
遠藤 保子	論文(単独)	“Dance Documentation, Preservation, and Digital Recording” (Dance Research Journal of Korea Vol.72 No.05) pp.106-113	2014
	研究発表等 (共同)	「ガーナ国立劇場舞踊団 (Ghana Dance Ensemble) における練習法に関する考察」(相原進, 節慶, 運動, 儒学興文化国際學術研討會, 於：國立臺南大學)	2014.9
	研究発表等 (共同)	「エチオピアの舞踊と舞踊のデジタル記録解析」(相原進, 第三屆亞洲体育人委学会大会, 於：新疆師範大学体育学院, 新疆烏魯木齊)	2014.10
大谷いづみ	著書(分担執筆)	日本老年行動科学会監修・大川一郎編集代表『高齢者のこころとからだ事典』(「安楽死・尊厳死—少子高齢社会における「死に方/死なせ方」の政治学」, 中央法規出版) 542-543頁	2014.9
	論文(単著)	「死に至る憐れみ—啓蒙・抵抗・応答の一九七〇年代」(『現代思想』42巻13号, 青土社) 178-197頁	2014.9
大野 威	論文(単著)	「金融危機後のアメリカの雇用動向：過去の景気後退後との比較」(『立命館産業社会論集』50巻4号) 1-19頁	2015.3
岡田 まり	著書(単著)	「スーパービジョンの意義と目的」(『相談援助の理論と方法II 第3版』, 社会福祉養成講座編集委員会, 中央法規) 199-213頁	2015.2
	著書(分担執筆)	「事例研究・事例分析」(『同上』, 同上) 267-291頁	2015.2
	著書(分担執筆)	「相談援助演習の目的と意義, 内容」(『社会福祉士相談援助演習』, 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会, 中央法規) 2-14頁	2015.2
	著書(分担執筆)	「医学モデル・社会モデル・生活モデルに関する相談援助演習」(『同上』, 同上) 182-185頁	2015.2
	著書(分担執筆)	「認知行動療法に関する相談援助演習」(『同上』, 同上) 210-213頁	2015.2

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
岡本 尚子	論文(共著)	“Understanding strategy development in mathematics: using eye movement measurement in educational research” (Yasufumi Kuroda, European Journal of Research on Education 2 巻2号) 94-100頁	2014. 6
	論文(共著)	「立面図・見取図・立体の変換過程における視線移動の特徴」(黒田恭史・中島悠, 『佛教大学教育学部学会紀要』14巻) 49-58頁	2015. 3
	研究発表等 (単独)	「シンガポールの算数教科書における問題解決学習の特徴」(日本教育実践学会第17回研究会, 於: 鳴門教育大学)	2014.11
	研究発表等 (共同)	“A relationship between brain activity data and eye tracking data during mathematical tasks from the view of educational research” (Yasufumi Kuroda, European Association for Research on Learning and Instruction, 於: Georg-August-University of Göttingen, Germany)	2014. 6
	研究発表等 (共同)	「視線移動計測がもたらす数学教育研究への影響」(黒田恭史, 日本教育学会第73回大会, 於: 九州大学)	2014. 8
	研究発表等 (共同)	「学習者観察・関与過程における脳活動の特徴」(黒田恭史, 教育システム情報学会第39回全国大会, 於: 和歌山大学)	2014. 9
	研究発表等 (共同)	「立面図から立体を再現する過程時の視線移動の特徴」(中島悠, 黒田恭史, 数学教育学会秋季例会, 於: 広島大学)	2014. 9
	研究発表等 (共同)	「量感育成を意図した指導方法のあり方—日本とシンガポールの算数教科書比較を通して—」(黒田恭史, 数学教育学会秋季例会, 於: 広島大学)	2014. 9
	研究発表等 (共同)	“Direction judgment during map reading: An eye-tracking study” (Yasufumi Kuroda, The Macrotheme International Conference on Business and Social Science, 於: Espace Vocation Haussmann Saint-Lazare, France)	2014.12
研究発表等 (単独)	「空間認知における視線の先読みについて—地図上での方向判断を事例として—」(黒田恭史, 数学教育学会春季例会, 於: 明治大学)	2015. 3	
小川 栄二	著書(分担執筆)	『検証「社会保障改革」—住民の暮らしと地域の実態から—』(新井康友他, 自治体研究社) 43-64頁	2014.10
	論文(単著)	「介護保険から外され, 市町村事業に「移行」される「要支援認定者」を考える」(『自治と分権』58号, 自治労連・地方自治問題研究機構) 81-93頁	2015. 1
小澤 亘	論文(共著)	“The Local Community Volunteer Social Worker System in Japan: Analysis of Survey Data” (MAKITA Yukifumi, HIGUCHI Koichi, NISHIMURA Kiyotada, ISHIKAWA Kuniko, OGAWA Eiji, KATO Hiroshi, Ritsumeikan University SANGYOU-SHAKAI-RONSHU 50巻3号) pp.1-20.	2014.12
	研究発表等 (共同)	“The Local Community Volunteer Social Worker System in Japan: Survey-data Analysis and Feedback to the Community” (Wataru Ozawa et al., ISTR (International society for third sector research) 11th International Conference, 於: University of Münster, Germany)	2014. 7
	研究発表等 (単独)	「マイノリティの学習権保障と教科書アクセシビリティ」(日本デジタル教科書学会2014年度年次大会, 於: 新潟大学教育学部付属新潟小学校)	2014. 8
	研究発表等 (単独)	「『日本語』というバリア: ニューカマーの子どもたちと学習権の保障」(東京大学教育学研究科バリアフリー教育開発研究センター主催: 公開シンポジウム, 「教科書とバリアフリー —インクルーシブな社会のための教育の課題」, 於: 東京大学) (『東京大学教育学研究科バリアフリー教育開発研究センター報告書3号』) 114-127頁	2014.12

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
小澤 亘	研究発表等 (単独)	“Volunteer Sector facing the Super Aged Society in Japan” (国際シンポジウム: 新自由主義的グローバル化と現代東アジアの社会経済構造の変容、於: 立命館大学衣笠キャンパス)	2015. 3
角田 将士	著書(分担執筆)	『“国境・国土・領土”教育の論点争点』(草原和博・渡部達也編著, 明治図書) 45-52頁	2014. 8
	論文(単著)	「中学校学習指導要領における二つの歴史教育論—1951年版と1958年版の比較分析—」(『社会科教育論叢』49巻, 全国社会科教育学会) 55-64頁	2015. 3
	その他(単著)	「思考プロセスとしての展開(リズム)と意外性のある問い(変化)—“リズムと変化のある授業”のイメージって?—」(『社会科教育』662号, 明治図書) 7頁	2014. 6
	その他(単著)	「見方考え方の成長を意識した社会科授業づくりの視点」(『社会科NAVI』8巻, 日本文教出版) 8-9頁	2014.10
	その他(単著)	「脱暗記型の授業をめざして」(大分県高等学校教育研究会地理歴史科公民科部会編『研究集録』51号) 24-26頁	2015. 3
	研究発表等 (単独)	「法教育に関する研究は何をめざしていけばよいのか—社会科教育学研究における歴史的研究の立場から—」(法と教育学会第5回学術大会, 於: 筑波大学)	2014. 9
	研究発表等 (単独)	「わが国における社会系教科の史的展開と今日的課題」(第40回岡山社会科授業研究会, 於: 岡山大学)	2015. 1
金山 勉	著書(分担執筆)	『21世紀スポーツ大事典「スポーツとインターネット」』(中村敏雄・高橋健夫・寒川恒夫・友添秀則編集主幹, 大修館書店) 768-771頁	2015. 1
	その他(単著)	「新聞の低迷, ジャーナリズム教育に暗い影」(『メディア展望』628号, 新聞通信調査会) 33頁	2014. 4
	その他(単著)	「137億年の歴史を知るために(1) そこに始まりがあった」(クリストファー・ロイド(英語原著者), ミネルヴァ通信『究』37号, ミネルヴァ書房) 2-3頁	2014. 4
	その他(単著)	「米国人高齢者へIT利用が浸透」(『メディア展望』629号, 新聞通信調査会) 23頁	2014. 5
	その他(単著)	「137億年の歴史を知るために(2) 地球は生命の母なる惑星」(クリストファー・ロイド(英語原著者), ミネルヴァ通信『究』38号, ミネルヴァ書房) 2-3頁	2014. 5
	その他(単著)	「海外メディア事情: 衛星・通信のメガ合併なるか」(『月刊民放』44巻6号) 42-43頁	2014. 6
	その他(単著)	「動き出した巨大メディアの合併」(『メディア展望』630号, 新聞通信調査会) 23頁	2014. 6
	その他(単著)	「137億年の歴史を知るために(3) 生命の起源」(クリストファー・ロイド(英語原著者), ミネルヴァ通信『究』39号, ミネルヴァ書房) 2-3頁	2014. 6
	その他(単著)	「ジャーナリズム教育刷新必要な米大学」(『メディア展望』631号, 新聞通信調査会) 29頁	2014. 7
	その他(単著)	「137億年の歴史を知るために(4) 遺伝子の御業(みわざ)—生命の発生を探る」(クリストファー・ロイド(英語原著者), ミネルヴァ通信『究』40号, ミネルヴァ書房) 2-3頁	2014. 7
	その他(単著)	「米各州政府の報道で学生生活用の動き」(『メディア展望』632号, 新聞通信調査会) 25頁	2014. 8

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
金山 勉	その他(単著)	「137億年の歴史を知るために(5) 陸が見えたぞ!」(クリストファー・ロイド(英語原著者), ミネルヴァ通信『究』41号, ミネルヴァ書房) 2-3頁	2014.8
	その他(単著)	「中間選挙に向け全米各TV局が報道体制強化」(『メディア展望』633号, 新聞通信調査会) 17頁	2014.9
	その他(単著)	「137億年の歴史を知るために(6) 地上を襲った突然の気候変動」(クリストファー・ロイド(英語原著者), ミネルヴァ通信『究』42号, ミネルヴァ書房) 2-3頁	2014.9
	その他(単著)	「ネットでも沈黙を迫られる少数派」(『メディア展望』634号, 新聞通信調査会) 23頁	2014.10
	その他(単著)	「137億年の歴史を知るために(7) 類人猿, 両足で大地を踏みしめる」(クリストファー・ロイド(英語原著者), ミネルヴァ通信『究』43号, ミネルヴァ書房) 2-3頁	2014.10
	その他(単著)	「テレビ広告増がネットビジネスに好影響」(『メディア展望』635号, 新聞通信調査会) 21頁	2014.11
	その他(単著)	「137億年の歴史を知るために(8) 文明の夜明け 歴史物語のはじまり」(クリストファー・ロイド(英語原著者), ミネルヴァ通信『究』44号, ミネルヴァ書房) 2-3頁	2014.11
	その他(単著)	「137億年の歴史を知るために(9) 文明の興亡」(同上(同上), 同上『究』45号, 同上) 2-3頁	2014.12
	その他(単著)	「海外メディア事情:FCC, 大変革の予感」(『月刊民放』44巻12号) 38-39頁	2014.12
	その他(単著)	「大転換の時期迎えた米TV事業」(『メディア展望』636号, 新聞通信調査会) 33頁	2014.12
	その他(単著)	「137億年の歴史を知るために(10) グローバル化の起源」(クリストファー・ロイド(英語原著者), ミネルヴァ通信『究』46号, ミネルヴァ書房) 2-3頁	2015.1
	その他(単著)	「既存メディアと非営利編集者の協働の道」(『メディア展望』637号, 新聞通信調査会) 19頁	2015.1
	その他(単著)	「137億年の歴史を知るために(11) 世界の新秩序を目指して」(クリストファー・ロイド(英語原著者), ミネルヴァ通信『究』47号, ミネルヴァ書房) 2-3頁	2015.2
	その他(単著)	「米高齢者のFB利用が顕著な伸び」(『メディア展望』638号, 新聞通信調査会) 34頁	2015.2
	その他(単著)	「海外メディア事情:優先されるべき「思想の自由市場」」(『月刊民放』45巻2号) 42-43頁	2015.3
	その他(単著)	「137億年の歴史を知るために(12) 創造のパンゲア大陸がもたらしたもの」(クリストファー・ロイド(英語原著者), ミネルヴァ通信『究』48号, ミネルヴァ書房) 2-3頁	2015.3
	その他(単著)	「米の既存メディア, 地盤沈下続く」(『メディア展望』639号, 新聞通信調査会) 26頁	2015.3
	研究発表等(司会等)	「日本型ジャーナリズム認証制度の可能性 韓国におけるジャーナリズム環境の変化と代替メディアの登場」(元溶鎮・森類臣, 日本マス・コミュニケーション学会2014年度秋季研究発表会, 於:東洋大学)	2014.11
	景井 充	論文(単著)	「デュルケム社会学を社会思想として捉えなおす—デュルケム道德社会学は何を目指したか—」(『立命館産業社会論集』50巻2号) 55-67頁

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
景井 充	論文(単著)	「デュルケム社会学はいかなる社会像を描出しようとしたのか—『社会学的方法の規準』を読み直す—(上)」(『同上』50巻3号) 21-42頁	2014.12
	論文(単著)	「デュルケム社会学はいかなる社会像を描出しようとしたのか—『社会学的方法の規準』を読み直す—(下)」(『同上』50巻4号) 21-37頁	2015. 3
	フォーラム報告 (共著)	「フロンティア・デザイン・フォーラム—『クリエイティブ・ローカル』の時代を拓く」(高嶋正晴・中西典子・藤本美貴・宮内達朗ほか、『同上』50巻2号) 163-180頁	2014. 9
唐鎌 直義	論文(単著)	「貧困者切り捨ての社会保障制度改悪」(『月刊保団連』1174号、全国保険医団体連合会) 11-18頁	2014.11
	その他(単著)	インタビュー記録:「餓死・孤独死の頻発まねく消費増税」(『国公労調査時報』617号、日本国家公務員労働組合連合会) 1-32頁	2014. 5
権 学俊	論文(単著)	「日韓両国における朝鮮人特攻隊員に対する意識変容と追悼・忘却」(『日本語文学』67巻、日本語文学会) 495-522頁	2014.11
	論文(単著)	「戦時下における大相撲の変容と創られた相撲ブーム」(『日本文化研究』53巻、東アジア日本学会) 5-25頁	2015. 1
	その他(単著)	「生活の中の植民地主義」(立命館大学『国際平和ミュージアムだより』Vol 22-1) 10頁	2014. 8
	その他(単著)	「帝国日本と植民地朝鮮の近代都市形成—1920年代～30年代東京・大阪・京城・仁川の都市計画論と記念空間を中心に」(『コリア研究』6号、立命館大学コリア研究センター) 178-181号	2015. 3
	研究発表等 (単独)	「日本における排外主義とレイシズム」(韓国社会文化研究会第78回西部研究会、於:立命館大学衣笠キャンパス)	2014. 9
	研究発表等 (単独)	「戦後日韓関係と歴史問題を巡る葛藤メカニズム」(現代日本社会研究会月例研究会、於:韓国・世明大学)	2014.11
	研究発表等 (単独)	「国民体育大会の歴史の変遷と教育に与える問題・影響」(福井県高等学校教職員組合教育研究会、於:福井県教育センター)	2014.11
	そ の 他 (司会・パネリスト等)	「日本文化の現代的価値と日本研究」(韓国日本学会第89回学術大会、於:韓国・誠信女子大学)	2014. 8
	黒田 学	論文(共著)	“UN Convention on the Invalids Rights and Special Education in Japan (Конвенция ООН о правах инвалидов и специального образования инвалида в Японии)” (Sadao Shimizu, Defectology (Дефектология) 2014. 5号) pp.84-92.
論文(共著)		「イタリア共和国エミリア・ロマーニャ州における障害児教育・福祉に関する調査研究」(平沼博将・石川政孝・バユス・ユイス・小西豊ほか、『立命館産業社会論集』50巻2号) 31-54頁	2014. 9
論文(共著)		「ポーランドの障害児教育・福祉調査—アウシュヴィッツと障害者スポーツ—」(小西豊、『福祉のひろば』177号、大阪福祉事業財団) 40-45頁	2014.12
論文(共著)		「地域に根ざした障害者福祉の取り組み—京都府与謝野町におけるよさのうみ福祉会の地域連携—」(青木一博、『立命館産業社会論集』50巻3号) 163-171頁	2014.12
論文(単著)		「ベトナムの障害者教育法制と就学実態(第6章)」(小林昌之編、『アジアの障害者教育法制—インクルーシブ教育実現の課題—』、アジア経済研究所(アジ研選書、38)) 163-191頁	2015. 2

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
黒田 学	研究発表等 (共同)	「特別ニーズ教育の国際比較研究 (その2)」(平沼博将・小西豊・坂井清泰, 日本特殊教育学会第52回大会, 於: 高知大学)	2014. 9
小泉 秀昭	論文(単著)	「広告会社の評価システムの考察—広告主と広告会社の関係改善に向けて—」(『日経広告研究所報』276号) 2-9頁	2014. 8
	研究発表等 (単独)	「FIFA ワールドカップにおける広告効果の研究—TVCM・スポンサーシップ効果・観戦形態の視点から—」(日本広告学会第45回全国大会, 於: 立教大学)	2014.12
坂田 謙司	論文(単著)	「戦後草創期ローカル放送の成立過程と地域メディア—NHK北見放送局と有線放送の協力関係が目指したもの—」(『立命館産業社会論集』50巻2号) 15-28頁	2014. 9
	論文(単著)	「ラジオ番組制作はメディア・リテラシー学習でどのように活かせるか—ラジオとメディア教育接合の可能性と課題—」(『立命館産業社会論集』50巻4号) 177-188頁	2015. 3
櫻井 純理	著書(共著)	『就労支援を問い直す—自治体と地域の取り組み』(筒井美紀・本田由紀, 勁草書房) 10-17, 115-142, 195-210頁	2014. 5
	論文(共著)	「新自由主義のもとで変化する日本の労働市場」(篠田武司, 『立命館産業社会論集』50巻1号) 51-71頁	2014. 6
	書評(単著)	「黒田兼一・小越洋之助編『公務員改革と自治体職員—NPMの源流・イギリスと日本』」(『日本労働社会学会年報』25号) 187-190頁	2014.12
	研究発表等 (単独)	招待講演: 「自治体政策と職員に期待すること—豊中市雇用労働政策の調査研究をふまえて」(京都地方自治総合研究所総会記念講演会, 於: ハートピア京都, 記録: 『地方自治京都フォーラム』第122号, 京都地方自治総合研究所, /2014年秋)	2014. 5
	研究発表等 (単独)	招待講演: 「誰もが働ける社会/生きていける社会を築く—自治体と地域の取り組み—」(大阪地方自治研究センター総会, 於: PLP 会館)	2014. 7
笹野恵理子	論文(共著)	「日本と韓国の学校音楽教育の比較研究 (1) —制度化されたカリキュラムの比較—」(佐藤真由子『学校音楽教育実践研究』19巻, 日本学校音楽教育実践学会) 91-115頁	2015. 3
	研究発表等 (共同)	「日本と韓国の学校音楽教育の比較研究 (1) —制度化されたカリキュラムの比較—」(佐藤真由子, 日本学校音楽教育実践学会第19回全国大会, 於: 熊本大学)	2014. 8
	研究発表等 (単独)	「生きられたカリキュラムの実証的解明 (2) —ナラティブ・アプローチによる学校音楽カリキュラム経験の解明—」(第3回近現代教育実践史学会, 於: 和歌山大学)	2014.12
	シンポジウム (単独)	“The comparative study of the school music curriculum of Japan and South Korea” (The 2nd Japan-Korea International Symposium 2015, 於: ラマダ済州 韓国 招待発表)	2015. 3
佐藤 春吉	翻訳(監訳)	バース・ダナーマーク他著『社会を説明する—批判的实在論による社会科学論』(Berth Danermark et al. “Explaining Society: Critical realism in social sciences”, Routledge, 2002) (共訳者: 中澤平, 吉田幸治, 加藤雅俊, 松田亮三, 野村優, 木田融男, 藤田悟, ナカニシヤ出版) i-xiii, 1-22, 307-341頁 (訳者後書きを含む)	2015. 3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
佐藤 詩恵	論文(単著)	“I think”: Topic-marking in Spoken English Discourse” (JOURNAL OF ENGLISH AS AN INTERNATIONAL LANGUAGE. 9巻1号) pp.56-77.	2014.5
鎮目 真人	論文(単著)	“Policy Discourse, Framing, and The 2004 Pension Reform in Japan: Rethinking Vice into Virtue Theory” (US-CHINA LAW REVIEW 12巻1号) pp.1-21.	2015.1
	研究発表等 (単独)	“Rethinking Vice into Virtue? Policy Ideas, Framing, and the 2004 Pension Reform in Japan: A Prospect Theory Case Study” (Social Policy Association Conference 2014, 於: Sheffield University)	2014.7
	研究発表等 (単独)	「ポリシーディスコース, フレーミングと2004年年金改革」(第43回福祉社会学会研究会, 於: 目白大学新宿キャンパス)	2015.2
柴田 悠	論文(単著)	「積極的労働市場政策は親密性の自殺予防効果を高めるか—1980年から2007年における日韓を含む OECD27ヵ国の動学的パネル分析」(太郎丸博編『東アジアの労働市場と社会階層』, 京都大学学術出版会) 111-135頁	2014.5
	論文(単著)	「自殺率に対する積極的労働市場政策の効果— OECD26ヵ国1980~2007年のパネルデータ分析」(『社会学評論』65巻1(通号257)号, 日本社会学会) 116-133頁	2014.6
	論文(共著)	「生活目標のコーホート分析—いかなる時代・世代に日本人の生活目標は変化したのか?」(『ソシオロジ』59巻1(通号180)号), 社会学研究会) 21-37頁	2014.6
	その他(単著)	「子育て支援を「相続税」で拡充せよ—新成長戦略の限界とその克服」(電子マガジン『シノドス』, http://synodos.jp/authorcategory/shibataharuka)	2014.8
	研究発表等 (共同)	“Care Time Diamond and Its Applications to Seven Asian Societies” (Mi-Young AN and Haruka SHIBATA, XVIII ISA World Congress of Sociology, 於: Pacifico Yokohama)	2014.7
	研究発表等 (単独)	「社会保障への攻撃はなぜ起こるのか」(2014年度ふらっと市民セミナー「寝屋川市立男女共同参画推進センター」, 於: ふらっとねやがわ)	2015.3
	下條 正純	研究発表等 (単独)	「ライトノベルにおける発話文とキャラクター描写の関わり」(2014年日本語教育国際研究大会, 於: シドニー工科大学)
杉本通百則	論文(単著)	「イギリス・ドイツにおける建設アスベストの粉塵対策と代替化の展開(上)」(『立命館産業社会論集』50巻2号) 69-92頁	2014.9
	論文(単著)	「イギリス・ドイツにおける建設アスベストの粉塵対策と代替化の展開(下)」(『立命館産業社会論集』50巻3号) 43-66頁	2014.12
	研究発表等 (単独)	「アスベスト問題をめぐる国家の論理と技術的基盤の確立」(日本科学史学会技術史分科会, 於: 立命館大学大阪梅田キャンパス)	2015.3
住家 正芳	そ の 他	『民俗学事典』(丸善出版) 554-555頁	2014.12
高嶋 正晴	著書(共著)	『食と農と里山 vol.1』(26の手のひらの宇宙・人編, あうん社) 123-132頁	2014.11
	論文(単著)	「第8章 大学の地域連携プロジェクトにみる農山村地域の魅力づくりとシニア活用」(三宅康成・内平隆之・高嶋正晴・中塚雅也・松永桂子・井原友建・杉山武志, 『研究調査平成26年度末報告書: 人口減少下の多自然地域の魅力づくりの研究—シニア世代を活用した新たなビジネスの展開—』, 公益財団法人ひょうご震災記念 21世紀研究機構 研究調査本部) 60-64頁 URL http://www.hemri21.jp/kenkyusyo/katsudo/pdf/20150604hokoku_2.pdf	2015.3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
高嶋 正晴	論文(共著)	「フロンティア・デザイン・フォーラム—『クリエイティブ・ローカル』の時代を拓く—」(景井充・中西典子・藤本美貴・宮内達朗ほか, 『立命館産業社会論集』50巻2号) 163-180頁	2014. 9
	研究発表等 (単独)	「立命館大学『京北プロジェクト』による地域活性化の取り組み—「りつまめ納豆」を中心に—」(人口減少下の多自然地域魅力づくり研究会, 於: 公益財団法人ひょうご震災記念 21世紀研究機構 人と防災未来センター)	2014.12
	研究発表等 (単独)	「農山村地域の課題と可能性の観点から考える: フロンティア・デザイン〜「先進プロジェクト研究」の成果を踏まえつつ〜」(第2回フロンティア・デザイン・フォーラム〜「クリエイティブ・ローカル」の時代を拓く〜, 於: 立命館東京キャンパス)	2015. 2
竹内 謙彰	論文(共著)	「2〜3歳児は自己とモノのビデオ映像をどのように理解しているか?」(加藤弘美・加藤義信ほか, 『発達心理学研究』25巻3号, 日本発達心理学会) 302-312頁	2014. 9
	論文(共著)	「新しい発達診断法開発の試み—幼児期における発達の時期ごとの分析的検討—」(荒木穂積・中村隆一・荒井庸子・松島明日香ほか, 『立命館産業社会論集』50巻2号) 121-131頁	2014. 9
竹濱 朝美	論文(共著)	「ドイツにおける風力・太陽光発電の太陽連系と系統運用分析」(安田陽, 電気学会, 研究会資料, 新エネルギー・環境, 高電圧, 合同研究会 (FTE-14-020-027. 029-033, HV-14-075-082. 084-088)) 7-12頁	2014. 6
	論文(単著)	「ドイツにおける風力発電大量連系と柔軟な系統運用, 110kV 系統から380kV 系統への逆垂直負荷について」(第36回・風力エネルギー利用シンポジウム (36巻)) 257-260頁	2014.11
	研究発表等 (共同)	「ドイツにおける風力・太陽光発電の大量連系と系統運用分析」(安田陽, 電気学会, 研究会資料, 新エネルギー・環境, 高電圧, 合同研究会 (FTE-14-020-027. 029-033, HV-14-075-082. 084-088) 於: 関西大学)	2014. 6
	研究発表等 (単独)	“Grid integration of wind and solar energy in Japan and Germany: ‘Top-down’ grid operation and ‘bottom-up and flexible’ grid operation. at 19th REFORM Group Meeting, Salzburg Schloss Leopoldskron, (4th September 2014)” (19th REFORM Group Meeting, Salzburg)	2014. 9
	研究発表等 (単独)	“Grid integration of wind and solar energy in Japan and Germany: Uni-directional grid operation and bi-directional grid operation” (Energy Transitions around the World (organised by Helmholtz Alliance ENERGY-TRANS”, the Environmental Policy Research Centre (FFU), Freie Universität Berlin))	2015. 3
	玉置 えみ	論文(共著)	“Lifetime Prevalence of Mental Disorders among Asian Americans: Nativity, Gender, and Sociodemographic Correlates.” (Seunghye Hong, Emily Walton, Emi Tamaki, and Janice A. Sabin, Asian American Journal of Psychology (5巻4号)) 353-363頁
	論文(共著)	“Do Low Survey Response Rates Bias Results? Evidence from Japan.” (Ronald R. Rindfuss, Minja K. Choe, Noriko O. Tsuya, Larry L. Bumpass, and Emi Tamaki, Demographic Research (32巻26号)) 797-828頁	2015. 3
	研究ノート (単著)	「婚姻状態と健康の関連における男女差について—ハワイ健康調査2006予備分析より—」(『立命館産業社会論集』50巻4号) 209-217頁	2015. 3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
玉置 えみ	研究発表等 (共同)	“The Division of Household Labor, Gender Attitudes, and Marital Satisfaction: Evidence from Japan 1994-2009.” (Emi Tamaki, Ronald R. Rindfuss, Minja K. Choe, Noriko Tsuya, Larry Bumpass, and Martin Piotrowski, Population Association of America Annual Meeting, Boston, MA)	2014. 5
	研究発表等 (単独)	“The Gendered Effects of Marriage on Sobriety in Japan.” (Population Association of America Annual Meeting, Boston, MA)	2014. 5
	研究発表等 (共同)	「日本における Current Duration Approach の適用」(小西祥子, 玉置えみ, 日本人口学会第66回大会, 於: 明治大学)	2014. 6
	研究発表等 (共同)	「生活習慣と不妊の関連: インターネット調査の予備分析から」(玉置えみ, 小西祥子, 日本人口学会第66回大会, 於: 明治大学)	2014. 6
田村 和宏	著書(共著)	『未来につなぐ療育・介護労働』(飯田京子, 池上惇, 北垣智基, 鴻上圭太ほか, クリエイツかもがわ) 33-48頁	2014. 9
	論文(単著)	「重症心身障害児(者)の地生活支援の今日的課題—びわこ学園の事業展開から—」(『人間発達研究所紀要』28号, 人間発達研究所) 74-91頁	2015. 3
筒井 淳也	論文(単著)	「女性の労働参加と性別分業: 持続する「稼ぎ手」モデル」(『日本労働研究雑誌』648巻) 70-83頁	2014. 6
	研究発表等 (単著)	「政治的態度の国際比較における因果的分析と探索的分析: 福祉国家における社会的分断へのひとつのアプローチ」(日本比較政治学会, 於: 東京大学)	2014. 6
	研究発表等 (単独)	「Constructing Social Cleavage Indicators Using the Mixed-Effects Model」(XVIII ISA World Congress of Sociology, 於: 横浜, パシフィコ横浜)	2014. 7
	研究発表等 (共同)	「ライフイベントによる性役割態度の変化」(多賀太, 第24回日本家族社会学会, 於: 東京女子大学)	2014. 9
	研究発表等 (単独)	“When Equal Opportunity Law Fails in Japan: Women’s Labor Participation as an Unintended Consequence” (US-Japan Research Institute, 於: Washington DC, JSPS Washington Office)	2014. 9
	研究発表等 (単独)	“Challenges of an Extreme Aging Society: Toward a Social Investment State” (FFoS (Japanese_French Frontiers of Science Symposium), 於: 京都, 京都ブライトンホテル)	2015. 1
津止 正敏	著書(編著)	『男性介護者支援の論理と根拠』(編者 津止正敏, 立命館大学人間科学研究所)	2015. 3
	論文(単著)	「〈インタビュー〉「ケアメン」に必要な企業の支援とケア・コミュニティの確立」(『人事実務』, 産労総合研究所) 20-24頁	2014. 6
富永 京子	論文(単著)	“Social Movements and the Diffusion of Tactics and Repertoires: Activists’ Network in Anti-globalism Movement” (International Journal of Social, Management, Economics and Business Engineering (8巻6号)) 1774-1780頁	2014. 8
	論文(単著)	「社会運動と「逮捕」—被逮捕者に対するまなざしを通じて」(『年報社会学論集』27号, 関東社会学会) 122-133頁	2014.11
	論文(共著)	「社会運動の連携研究におけるモデル構築の試み—『戦略的連携—連携形成と社会運動』を手がかりに—」(藤田研二郎・原田峻, 書評ソシオロゴス(10号)) 1-26頁	2014.12
	論文(単著)	『社会運動のサブカルチャー化—「2008年G8サミット抗議行動」での経験に焦点を当てて』(東京大学大学院人文社会学系研究科 博士学位請求論文)	2015. 3

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
富永 京子	研究発表等 (单著)	“What problems are civil society facing in Japan? From the viewpoint of intra-organizational/individual networks in the protest event” (新しい学問を考える集い, 於: 東京大学東洋文化研究所)	2014. 4
	研究発表等 (单著)	“Temporary Cluster and Social Movements: Coalition Building among the Social Movement Organizations in the Global Justice Movement” (Mitchell Centre Seminar, 於: The University of Manchester)	2014. 5
	研究発表等 (单著)	「社会運動組織としての家庭—ライフスタイル運動を通じた政治的社会化の場として—」(第65回関西社会学会大会, 於: 富山大学)	2014. 5
	研究発表等 (共同)	「アジア・太平洋価値観国際比較—社会的参画の国際比較からみる「日本的な政治参加」—」(吉野諒三, 日本行動計量学会第42回大会, 於: 東北大学)	2014. 9
	研究発表等 (单著)	“The Role of Social Movements as Political Mutual Understandings: Anti-Globalism Movement is Space of Openness?” (12th East Asian Sociologists Conference, 於: 北京大学)	2014.10
	研究発表等 (单著)	「現代日本の反レイシズム運動に関する実証研究 (2)」(第87回日本社会学会大会, 於: 神戸大学)	2014.11
仲井 邦佳	著書(分担執筆)	『マドリードとカスティーリャを知るための60章』(川成洋・下山静香編著, 「カスティーリャ語からスペイン語へ」, 明石出版) 26-30頁	2014. 6
	訳書(单訳)	『スペイン語記述文法』(1999)「新スペイン語文法」(2009)章別和文要約6』(「記述文法 第54章 並列(等位)と従列(従属)」, 関西スペイン語学研究会) 139-152頁	2015. 3
	論文(单著)	「スペイン語複文の新たな分類の試み—二極文再定義を通じて—」(『立命館産業社会論集』50巻1号) 33-43頁	2014. 6
	その他(单著)	「スペイン語講座 (17) 時を表す副詞の用法について」(『Acueducto』第17号, Adelante) 29頁	2014. 5
	その他(单著)	「スペイン語講座 (18) 様態を表す副詞の用法について」(『同上』第18号, Adelante) 29頁	2014. 8
	その他(单著)	「スペイン語講座 (19) 極性を表す副詞の用法について」(『同上』第19号, Adelante) 23頁	2014.11
	その他(单著)	「スペイン語講座 (20) 線過去の用法について (1)」(『同上』第20号, Adelante) 28頁	2015. 2
中井 美樹	著書(分担執筆)	“Sociology of Consumption.” in James D. Wright (Ed.) International Encyclopedia of the Social & Behavioral Sciences, 2nd edition.” (Elsevier, Oxford) pp.757-761.	2015. 3
	論文(共著)	“A Geometrical Framework for Covariance Matrices of Continuous and Categorical Variables.” (Vernizzi, Graziano and Miki Nakai, Sociological Methods and Research. 44巻1号) pp.48-79.	2015. 2
中西 純司	論文(单著)	「スポーツマーケティングにおける『市場志向』概念の検討—特に, 民間スポーツ・フィットネスクラブ組織への適用—」(『立命館産業社会論集』50巻1号) 127-153頁	2014. 6
	論文(共著)	「公共スポーツ施設と障がい者のサービス品質評価—インクルージョンの段階にみた施設の特徴—」(金山千広, 『立命館産業社会論集』50巻1号) 155-172頁	2014. 6
	論文(单著)	「1-2 スポーツ政策経営における『スポーツ価値』の探究」(平成26年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告:「新たなスポーツ価値意識の多面的な評価指標開発」) 32-46頁	2015. 3

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
中西 純司	研究発表等 (単独)	「スポーツマーケティングにおける『市場志向』概念の展望と課題—民間スポーツ・フィットネスクラブ組織への適用—」(日本体育学会第65回大会、於：岩手大学)	2014.8
中西 典子	論文(単著)	「政権交代後の英国におけるローカル・パートナーシップおよびローカリズム政策の動向」(『日本都市学会年報』47巻) 117-126頁	2014.5
	論文(共著)	「フロンティア・デザイン・フォーラム—『クリエイティブ・ローカル』の時代を拓く—」(高嶋正晴・景井充・藤本美貴・宮内達朗ほか、『立命館産業社会論集』50巻2号) 163-180頁	2014.9
	その他(単著)	「山本隆編著『社会的企業論—もうひとつの経済』」(『季刊 くらしと協同』12号、くらしと協同の研究所) 48-49頁	2015.3
中西 仁	論文(単著)	「社会科授業と領土問題」(『京教社会』19号、京都教育大学社会系教育研究会) 31-38頁	2015.3
	論文(単著)	「『教職概論』における教職課程入門の試み—学校・教職の現状を語ることを通して—」(『同志社大学教職課程年報』4号) 37-48頁	2015.3
	研究発表等 (共同)	シンポジウム：「社会科では、紛争や領土問題の何を、なぜ、どのように扱うか」(京都教育大学社会系教育研究会平成26年度研究会、於：京都教育大学)	2014.6
仲間 裕子	論文(単著)	“The Matsukata Collection: Europe and Japan’s mutual cultural interest in art” (Giovanna Perini Folesani, Anna Maria Ambrosini Massari, ed. <i>Riflessi Del Collezionismo tra Bilanci Critici e Nuovi Contributi. Reflections of/on Art Collecting, between Critical Assessments and New Contributions</i> , Leo S. Olschki Editore, Firenze) pp.359-375.	2014
	翻訳(単訳)	ハンス・ベルティンク著『イメージ人類学』(平凡社) 全377頁	2014.10
	研究発表等 (単独)	招待講演：「日本美術の美意識」(於：台北・国立故宫博物院)	2014.9
	研究発表等 (単独)	「イメージ人類学から‘グローバルアート’へ」(『シンポジウム：ノマドとしてのイメージ—ハンス・ベルティンク『イメージ人類学』再考』、立命館国際言語文化研究所主催、於：立命館大学)	2015.3
中村 正	著書(分担執筆)	「離婚紛争の合意による解決の支援と子どもの意思の尊重」(二宮周平ほか編『離婚紛争の合意による解決の支援と子どもの意思の尊重』、日本加除出版) 120-147頁	2014.10
	論文(単著)	「臨床社会学の方法(5) 日常行動理論」(『対人援助学マガジン』、対人援助学会、5巻1号) 19-28頁	2014.4
	論文(単著)	「男性性・男性問題をめぐる臨床社会学—親密な関係性研究に焦点づけて—」(『立命館産業社会論集』50巻1号) 73-95頁	2014.6
	論文(単著)	「臨床社会学の方法(6) 共軛関係」(『対人援助学マガジン』、対人援助学会、5巻2号) 19-28頁	2014.9
	論文(単著)	「臨床社会学の方法(7) 対人援助と民主主義」(『対人援助学マガジン』、対人援助学会、5巻3号) 19-31頁	2014.12
	論文(単著)	「臨床社会学の方法(8) 臨地の思考」(『対人援助学マガジン』、対人援助学会、5巻4号) 14-26頁	2015.3
	研究発表等 (単独)	“Community Support through “East Japan Family Support Project”” (21th IFP World Congress of Psychotherapy, (国際精神分析学会、於：中国・上海市)	2014.5

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
中村 正	研究発表等 (共同)	「男性性の傷つきに敏感なジェンダー臨床論のために(その3)ーコミュニケーションへと輻輳する女性性の暴力」(第6回対人援助学会, 於:立命館大学 京都市)	2014.11
	研究発表等 (共同)	「レジリエンスとライフストーリーワークー物語ることの諸実践と対人援助」(第6回対人援助学会, 於:立命館大学 京都市)	2104.11
永島 昂	著書(共著)	『図説経済の論点』(柴田努・森原康仁・新井大輔・宮崎崇将ほか, 「ものづくりの基盤が崩れる?ーグローバル化下の基盤技術産業」, 旬報社) 32-35頁	2015. 1
	論文(単著)	「日本鋳物産業における生産システムの分化に基づく供給構造」(『産業学会研究年報』30号, 産業学会) 113-125頁	2015. 3
	研究発表等 (単独)	「日本鋳物産業における生産システムの分化に基づく供給構造」(産業学会第52回全国研究会, 於:九州大学)	2014. 6
	研究発表等 (単独)	「博士論文『日本鋳物産業の歴史的展開における中小専門鋳物メーカーの技術的革新性』の概要」(日本科学史学会技術史分科会, 於:中央大学)	2014. 9
長澤 克重	論文(単著)	「文化産業分析のための統計的枠組みー2009 UNESCO FCSの構造と課題ー」(『立命館産業社会論集』50巻2号) 1-13頁	2014. 9
	研究発表等 (単独)	「文化/クリエイティブ産業分析のための統計的枠組みーユネスコ, 国連貿易開発会議における議論を中心にー」(経済統計学会関西支部例会, 於:立命館大学)	2014. 5
根津 朝彦	著書(分担執筆)	赤澤史朗・北河賢三・黒川みどり編, 『戦後知識人と民衆観』(『桑原武夫の戦後思想ーポルトレと戦後啓蒙期の批評を中心に』, 影書房) 179-218頁	2014. 6
	著書(分担執筆)	出原政雄編, 『戦後日本思想と知識人の役割』(『多田道太郎の自由主義』, 法律文化社) 179-201頁	2015. 1
	研究発表等 (単独)	「原寿雄が残した『デスク日記』に見られる言論力学」(日本史研究会2014年6月例会, 於:機関紙会館5階大会議室)	2014. 6
盧 載玉	著書(共著)	改訂版『韓国語似ている動詞使い分けブック』(河村光雅・梁貞模, 「例文と練習問題」, ベレ出版) 全423頁	2014. 7
野田 正人	論文(単著)	「いじめ対策法と基本方針の枠の下で」(『季刊 教育法』182号, エイデル研究所) 24-30頁	2014. 9
	論文(共著)	「福岡市における養育支援訪問事業の効果及び悪化した家庭の要因と支援のあり方の検討」(元山彩織・河浦龍生, 『子どもの虐待とネグレクト』16巻3号, 一般社団法人日本子どもの虐待防止学会) 307-319頁	2014.12
	研究発表会 (その他(パネリスト等))	「若者の仕事を巡る現実と生き方」(ユースワーカー養成公開研究会パネルフォーラム, 立命館大学人間科学研究所・(公財) 京都ユースサービス協会共催, 於:京都市中京青少年活動センター)	2014. 8
長谷川千春	論文(単著)	「若手女性研究者の葛藤ー研究と就職とライフコース選択」(日本の科学者会議編『日本の科学者』50巻3号, 本の泉社) 44-47頁	2015. 3
	研究発表等 (単独)	“The safety net for health care in Japan is fraying? - Employment, Health insurance and Public assistance” (立命館大学産業社会学部創設50周年記念学術企画「社会保険と医療のセーフティネットー日仏米医療制度の比較検討」, 於:立命館大学)	2015. 1
原尻 英樹	著書(共著)	金健人主編・安成浩副主編『濟州島の堂和老岐島の堂: 東亜海域共有的文化与“神”』(浙江大学出版社) 319-337頁	2014.10

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
東 自由里	著書(共著)	<i>Museums and Migration: History, Memory and Politics</i> “Heritage and the Reframing of Japan’s National Narrative of Hokkaido: negotiating identity in migration history” Ed. Laurence Gourievidis (Routledge: U.K and U.S.A.) [paperback, hardcover, and Kindle e-book] pp.244-258	2014. 6
	著書(共著)	『移民都市の苦悩と挑戦：ニューヨークとフランクフルト』(進藤修一, 晃洋書房) 全202頁	2015. 3
	論文(単著)	「9・11メモリアル・ミュージアムに“普通の国”の怖さをみた」(『世界』10月号, 岩波書店) 154-160頁	2014. 9
	研究発表等(単独)	“Preserving an archeological site and sharing artifacts between Korea and Japan” (International Conference on Memory and Learning in a Changing World The Falstad Memorial and Human Rights Centre, Norway / ICMEMO Annual Conference, sponsored by the Falstad Centre, International Council of Museums (ICOM) and Norwegian University of Science and Technology, 於：ファルスタッド・メモリアルセンター, ノルウェー)	2014. 9
	その他(単著)	“Memory and Learning in a Changing World,” ICOM NEWS, Vol.67, issue 4, p.20 (International Council of Museums, Maison de l’UNESCO, Paris) 同内容で英語版・フランス語版・スペイン語版・三語種別の雑誌に発刊一	2014.12
樋口 耕一	著書(共著)	『Rのパッケージおよびツールの作成と応用(シリーズ Useful R・金明哲編)』(石田基広・神田善伸・永井達大・鈴木了太, 共立出版) 73-128頁	2014.12
	論文(共著)	“The Local Community Volunteer Social Worker System in Japan: Analysis of Survey Data” (小澤亘・牧田幸文・西村清忠・石川久仁子・小川栄二・加藤博史, 『立命館産業社会論集』50巻3号) 1-20頁	2014.12
	研究発表等(共同)	「現代の高校生を脱原発へと向かわせるもの」(阪口祐介, 第65回関西社会学会大会, 於：富山大学)	2014. 5
	研究発表等(単独)	「KH Coderによる計量テキスト分析—アンケート自由回答の分析を中心に—」(第17回日本水環境学会シンポジウム, 於：滋賀県立大学)	2014. 9
日暮 雅夫	訳書(共訳)	ユルゲン・ハーバーマス著『自然主義と宗教の間：哲学論集』(庄司信・池田成一・福山隆夫共訳, 法政大学出版局) 1-9, 93-116, 304-348, 393-399頁	2014.10
	論文(単著)	「フランクフルト学派における「市民社会」の問題—ハーバーマスとホネット—」(シンポジウムⅠ現代の危機の答えるヘーゲル)(日本ヘーゲル学会編集委員会編, 『ヘーゲル哲学研究20号』, こぶし書房) 45-54頁	2014.12
日高 勝之	著書(単著)	『昭和ノスタルジアとは何か—記憶とラディカル・デモクラシーのメディア学—』(世界思想社) 全536頁, (2014年度日本コミュニケーション学会・学会賞〈著作の部〉受賞)	2014. 5
	その他(単著)	“Why Asahi Bashing Reveals the Weakness of the Japanese Left” (East Asia Forum)	2014.12
	その他(単著)	「第一次世界大戦100年 峻厳なる鎮魂—英国での多角的な追悼行事—」(京都新聞)	2014.12
	研究発表等(単独)	「「脱原発」と人文社会知」(日本コミュニケーション学会第44回全国大会, 於：琉球大学)	2014. 6
	研究発表等(単独)	「震災、原発をめぐるメディア・知的言説と昭和ノスタルジアの問題」(日本コミュニケーション学会第10回中部支部大会, 於：愛知淑徳大学)	2014.12

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
日高 勝之	研究発表等 (単独)	“East Japan Earthquake, Media and Showa Nostalgia” (JRC Lecture at the Centre for Film Studies, SOAS, The University of London, 於: London)	2015. 1
	研究発表等 (単独)	“Representations of Tokyo Tower in Showa Nostalgic Media” (Lecture at the University of London, 於: London)	2015. 3
平山真奈美	研究発表等 (単独)	“Complete or incomplete? Neutralization between “true” and derived geminates in Japanese” (Lexicon Festa, 於: 国立国語研究所)	2015. 2
福間 良明	論文(単著)	「人生雑誌に映る戦後」(『世界思想』41号, 世界思想社) 18-22頁	2014. 4
	論文(単著)	「戦跡の『発明』と地域の記憶」(『図書』784号, 岩波書店) 2-7頁	2014. 6
	その他(単著)	「反米と親米」(『分冊百科 日本の歴史』44号, 朝日新聞出版) 22-24頁	2014. 5
	書 評 論 文 (単著)	「書評 石原俊著『〈群島〉の歴史社会学: 小笠原諸島・硫黄島, 日本・アメリカ, そして太平洋世界』(『ソシオロジ』59巻3号) 121-126頁	2015. 2
	書 評 論 文 (単著)	「『戦争と社会』への視角 (荻野昌弘編『戦後社会の変動と記憶』書評)」(『関西学院大学先端社会研究所紀要』12号) 81-85頁	2015. 3
イアン・ホザック	研究発表等 (単独)	“Promoting Citizenship through Language Education: What Role for Japanese Teachers of English?” (平和教育京都国際フォーラム, 於: 同志社中学校・想遠館)	2014. 8
前田 信彦	論文(単著)	「高齢期におけるボランティア活動とアクティブ・エイジング—職業経験・能力のライフコース的效果—」(『立命館産業社会論集』50巻3号) 145-161頁	2014.12
	論文(単著)	「専門学校への入学経路と学習成果・職業能力」(『中核的専門人材育成のためのグローバル・コンソーシアム報告書 (九州大学)』Vol. 8 巻) 111-119頁	2015. 2
	論文(単著)	「大学生の学習成果・職業能力と初職達成の分析—学術知と経験知の効果—」(『立命館産業社会論集』50巻4号) 189-206頁	2015. 3
	研究発表等 (単独)	「大学院での学び直しと成人力—PIAAC データを用いた分析—」(文科省 国立教育政策研究所 PIAAC シンポジウム2015, 於: 霞が関ナレッジスクエア)	2015. 2
増田 幸子	研究発表等 (単独)	「終戦記念番組としてのテレビドラマ」(タイ国日本研究国際シンポジウム2014, 於: チュラーロンコーン大学文学部マハーチャクリーシリントン・ビル)	2014. 8
松島 剛史	論文(単著)	「国際ラグビー評議会公認レフリー制度の形成と意義: ラグビー産業における「支える」主体の形成と蓄積」(『立命館産業社会論集』50巻3号) 67-82頁	2014.12
松田 亮三	著書(共編著)	『対人支援における大学と社会实践の連携』(稲葉光行, 立命館大学人間科学研究研究所) 全81頁	2014.10
	著書(共編著)	<i>Cooperation between Academia and Social Practices in Human Services</i> (Inaba Mitsuyuki, Institute of Human Sciences, Ritsumeikan University) 全61頁	2014.10
	論文(単著)	「『診療報酬』の呪縛を越えて—実りある社会的議論に向けて」(『大阪保険医雑誌』571号) 15-19頁	2014. 4
	論文(単著)	「イングランドのNCD対策: 心血管アウトカム戦略を中心に」(『公衆衛生』78巻5号) 307-311頁	2014. 5

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
松田 亮三	論文(共著)	“The development and piloting of a leadership questionnaire for general dental practitioners: preliminary results from the North West of England and Tokyo” (Paul Brocklehurst 他 British Dental Journal 217, E17; doi: 10.1038/sj.bdj.2014.980.)	2014.11
	論文(単著)	「グローバリゼーションと健康・医療：新しい研究領域」(『日本医療経済学会会報』31巻1号) 1-2頁	2014.12
	論文(単著)	「グローバル化と医療政策分析：新しい課題」(『日本医療経済学会会報』31巻1号) 3-12頁	2014.12
	調査報告書 (共同)	“International Profiles of Health Care Systems, 2014” (Elias Mossialos, Martin Wenzl, Robin Osborn and Chloe Anderson eds. The Commonwealth Fund) pp.83-91.	2015. 1
	研究発表等 (共同)	「アクション・リサーチのための学実連携構築：「支える医療」共同プロジェクトでの経験」(福田茉莉・石橋修, 第55回日本社会医学学会総会, 於：名古屋大学)	2014. 7
	研究発表等 (共同)	「困難を抱える患者に対する医療実践の検討—医療従事者が経験する「困難性」に関するインタビュー調査から—」(福田茉莉・石橋修, 第55回日本社会医学学会総会, 於：名古屋大学)	2014. 7
	研究発表等 (単独)	「健康格差に対する政策展開—理論と実践」(第55回日本社会医学学会総会, 於：名古屋大学)	2014. 7
	研究発表等 (共同)	“Multilevel Governance in Comparison: national-Regional Dynamics in the Regulation of the French and the Japanese Healthcare systems” (Monika STEFFEN, 23rd World Congress of Political Science, 於：Palais des congres de Montral, モントリオール)	2014. 7
	研究発表等 (単独)	「日本医療の制度配置：変化と継続性」(第10回社会保障国際フォーラム, 於：友誼賓館)	2014. 9
研究発表等 (単独)	「医療機構ガバナンスの変化—国家・市場・地域」(日本医療経済学会第38回研究大会, 於：京都私学会館)	2014.12	
丸山 里美	論文(単著)	「ホームレスと女性」(『住宅会議』91巻, 日本住宅会議) 26-30頁	2014. 6
	論文(単著)	「貧困女性の声を聞く」(『社会主義』625巻, 社会主義協会) 83-90頁	2014. 7
	論文(単著)	「書評に込めて」(『ソシオロジ』59巻2号, 社会学研究会) 108-112頁	2014.10
	その他(単著)	「女性の貧困問題の構造」(Business Labor Trend, 労働政策研究・研修機構) 53頁	2014.12
峰島 厚	著書(共著)	『みぬまのちから—願いと困難を宝に—』(みぬま福祉会30周年記念刊行委員会, 白石恵理子・中村尚子, 全障研出版部) 110-117, 220-234頁	2015. 3
	著書(共編著)	『社会福祉士シリーズ14「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」』(木全和己・荻原康一, 弘文堂) 1-3頁	2015. 3
	著書(編著)	『障害福祉現場における各事業所間のメンタルヘルスケアの支援体制の構築のために—日社済社会福祉助成金補助事業報告書—』(障害福祉現場のメンタルヘルス検討会編 (代表峰島厚), NPO 法人大阪障害者センター) 25-27頁	2015. 3
森田 真樹	論文(単著)	「開放制の伝統に基づく教員養成の高度化をめざして」(『SYNAPSE (シナプス)』32号, ジアース教育新社) 32-36頁	2014. 4
	論文(単著)	「私立大学から見た教員養成改革議論と教職課程の質向上及び高度化の方策」(『日本教師教育学会年報』23号) 10-19頁	2014. 9

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
森田 真樹	論文(単著)	「現代の教員養成改革と私立大学における教員養成」(『大学時報』360号, 日本私立大学連盟) 32-37頁	2015. 1
	その他(単著)	「このデータを解体新書(連載第5回) 国産だけど, 自給じゃないの?」(『社会科教育』664号, 明治図書) 3頁	2014. 8
	その他(単著)	「社会参画型授業をつくる“これからの学習課題・学習問題” 未来予測に立つ“グローバル社会”の取り上げ方」(『社会科教育』666号, 明治図書) 50-51頁	2014.10
	その他(単著)	「公民教材で賛否両論の白熱討論テーマは“これ” 外国人労働者の受け入れと増加」(『社会科教育』668号, 明治図書) 26-27頁	2014.12
	その他(単著)	「“社会の見える化”といえバ ビッグデータで見えてくるテーマ」(『社会科教育』669号, 明治図書) 7頁	2015. 1
	その他(同会・パブリスト等)	「グローバル人材の育成に公民教育はどう関わることができるのか」(日本公民教育学会第25回大会, 於: 福井大学)	2014. 6
門田幸太郎	研究発表等(共同)	「小学校5年生時の遊び経験と青年期の社会性との関連(1)」(神藤貴昭・光浪睦美・久木山健一・伊藤崇達ほか, 日本教育心理学会, 於: 神戸大学)	2014.10
	研究発表等(共同)	「小学校5年生時の遊び経験と青年期の社会性との関連(2)」(神藤貴昭・光浪睦美・久木山健一・伊藤崇達ほか, 日本教育心理学会, 於: 神戸大学)	2014.10
柳澤 伸司	著書(共著)	『現代ジャーナリズム事典』(武田徹・藤田真文・山田健太ほか, 「発掘! あるある大事典Ⅱ事件」, 「光市母子殺人事件」, 「Vチップ」, 「僕パパ事件」, 「良心条項」, 三省堂) 241-242, 254-255, 261, 299-230, 334頁	2014. 6
山岡 雅博	論文(単著)	「教師が教師を育てる仕事に携わるといふこと」(『教育』819巻, かもがわ出版) 91-98頁	2014, 4
山下 秋二	著書(共編著)	『21世紀スポーツ大事典』(中村敏雄・高橋健夫・寒川恒夫・友添秀則ほか, 大修館書店) 162-180頁	2015. 1
	論文(共著)	「Jクラブの地域密着戦略と組織的知識創造のプロセス」(市木亮, 『体育経営管理論集』6巻, 日本体育学会体育経営管理領域) 19-29頁	2014. 7
山下 高行	論文(単著)	「マルクス主義とスポーツ思想」(中村敏雄他編『21世紀スポーツ大辞典』, 大修館書店) 653-656頁	2015. 1
	論文(単著)	「스포츠의 ‘장場’에서의 ‘상황의 반전’ 과 현재의 스포츠 사회학연구」(『Korean Sociological Review』Vol.6) 1-23頁	2015. 1
山本 耕平	論文(単著)	「ひきこもり支援の哲学と方法をめぐって: 若者問題に関する韓日間比較調査から—第3報」(『立命館産業社会論集』50巻1号) 213-233頁	2014. 6
	論文(単著)	「麦の郷と精神保健福祉実践 “ほっとけやん” マインドと地域協同の追求(特集: 精神障害者の地域生活への支援)」(『ノーマライゼーション 障害者の福祉』34巻7号) 27-29頁	2014. 7
	研究発表等(共著)	「麦の郷実践・運動にみる当事者・実践者・地域住民の関係性に関する研究—地域実践の対象から主体をめざして—」(兵頭宏美, 日本社会福祉学会第62回秋季大会, 於: 早稲田大学)	2014.11
	その他(同会・パブリスト等)	「総合的な若者支援実践の哲学と方法を巡って」(日本社会福祉学会第62回秋季大会, 於: 同上)	2014.11

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
吉田 誠	論文(単著)	「経営労務の動向」(法政大学大原社会問題研究所編『2014年版 日本労働年鑑』84号) 166-178頁	2014.6
	論文(単著)	「戦後初期の日産における人員体制の構築：女性労働者を中心に」(『社会科学論集』143号, 埼玉大学経済学会) 91-105頁	2014.11